

印西市

INZAI City

真に住み良さを実感できるまちづくり



印西市長 板倉 正直

印西市は、東京都心から40km圏内、成田国際空港には約15kmという大変利便性が高い位置にあります。平成30年5月には人口が10万人を超え、東洋経済新報社が毎年公表する「住みよさランキング」では、7年連続で全国1位の評価をいただくなど、北総の中核都市として着実に発展を遂げてまいりました。北千葉道路など、交通アクセスのさらなる向上により、ますます地域の活性化が期待できるとともに、千葉ニュータウン地域は、強固な地盤と質の高い都市基盤を備え、住宅はもとより、多くの企業や大型商業施設等が集積しています。一方で、都市近郊における良好な農地や里山をはじめとする豊かな自然、また、市内各地で受け継がれている伝統行事や歴史的建造物も大きな魅力です。

本市は現在、県内トップクラスの人口増加

率を誇っていますが、将来の人口減少を見据え、近年はシテイプロモーションに力を入れています。昨年度はPR動画「印度じゃないよ、印西市」を制作してYouTubeなどで配信し、大変好評を得ており、これまで印西市を知らなかった多くの皆様にも、印西市という名前を知っていただけたものと思います。

また、本市の特徴として、子育て世代の転入者が多いことから、名実ともに住み良いまちを目指し、子育て支援策の充実に積極的に取り組んでいます。医療費助成については、18歳まで実施し、小学校修学旅行費の補助や高等学校等への就学奨励制度なども創設しました。保育需要の高まりから、待機児童が増加傾向にありますが、保育園を開設する事業者に補助金を交付し、施設整備を促進しています。民間保育園は今年度3園、来年度はさらに5園の開園が予定されています。教育環境の改善にも取り組み、全小中学校のトイレの洋式化や普通教室へのエアコン設置も既に完了しています。一方で、高齢化率が上昇していることから、特に健康寿命の延伸に資する「いんざい健康ちよきん運動」は、先駆的な取り組みとして、市が積極的に普及に努め、住民主体の介護予防として定着しています。

今後も「真に住み良いまち」を目指し、総合力の高い、調和のとれたまちづくりを進めてまいります。

シテイプロモーションの強化

全国的には人口減少が続く中、印西市は現在も人口増加が続けていますが、将来予想される人口減少を最小限に抑えるため、シテイプロモーション活動を積極的に展開しています。

昨年度制作したPR動画「印度じゃないよ、印西市」は、インド映画をモチーフに、主人公のインド人が印度だと思っただころが実は印西市であったというストーリー。インド音楽に合わせたダンスによる、自治体初のポリウッド（インド）映画風に仕上がっています。YouTubeでの視聴回数は13万回を超えました。



29日の映画祭で、全国の頂点となる観光映像大賞が発表され、本市の作品は、惜しくも大賞は逃しましたが、印西市の知名度アップに大いに貢献したものと考えています。今後もさま



さまざまな手法でプロモーションを行う予定です。さらに、市の新名所として、多くの市民や市外からの誘客も図るため、昨年度の10月から1月にかけて、北総線千葉ニュータウン中

央駅北口で、沿線最大規模となるイルミネーション「イルミライ☆INZAI」を始めました。45本のケヤキ並木を18万球のシャンパングールドのイルミネーションで飾り、駅前の大きなシンボルツリーは、華やかなピンク色で彩られました。今年度も準備を進めており、17時から22時30分まで点灯する予定です。皆さんもぜひお越しください。

また、トピックスとして、今年10月に、日本初となる米国男子ゴルフPGAツアー「ZOZO選手権」が、本市の名門コース「アコディア・ゴルフ習志野カントリークラブ」で開催されます。世界で活躍する有名プロのプレーを間近で見ることができると、市外からも多くの来客が期待されています。

住み良さと実感「子育ても健康も」

本市では、安心して子育てができる環境づくりを進めています。待機児童解消に向けては、保育園開設事業者へ施設整備の補助金を

市役所/〒270-1396 千葉県印西市大森2364-2 TEL/0476-42-5111(代表)
ホームページアドレス <http://www.city.inzai.lg.jp/>

印西市データ



印西市マスコットキャラクター いんざい君



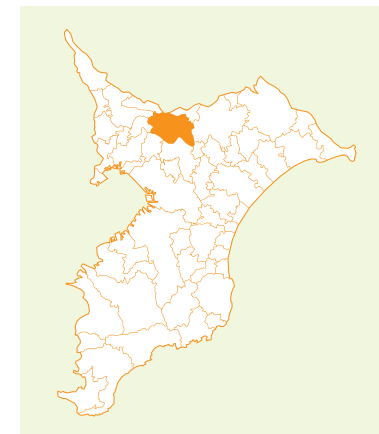
市章

印西の文字を図案化したもので、円は市の融和を意味し、円満に力強く発展する姿を表しています。

人口世帯数

人口 102,288人
男性 50,753人
女性 51,535人
世帯 40,925世帯

2019年5月末現在



交付することで、毎年度、保育需要の受け皿を拡大するとともに、保育士の確保も図るため、民間保育園の保育士宿舍の借り上げや、保育補助者の雇用に対する財政的支援を実施し、さらに今年度から、保育士及び保育教諭の処遇改善に対する補助額の引き上げを行いました。また、医療費の助成については、既に18歳までを対象としており、産後ケア事業や高等学校等への就学奨励制度なども創設しています。

次に、本市では、健康寿命の延伸にも力を入れています。住民主体で行われている「いんざい健康ちよきん運動」は、歌を歌いながら誰にでも簡単にできる筋力運動として、日頃から楽しく介護予防に取り組んでいただくもので、平成24年度にモデル事業として開始しましたが、現在では市内各地で66グループ、約1,500人（平成31年3月末現在）の皆さんが参加しています。他市町村からも視察に訪れるほど普及し、年々参加者を増やしています。現在は、高齢者人口の1割の参加を目標に、サポーターやインストラクターの養成にも取り組んでいます。

このように、今後も各世代がいきいきと暮らせ、皆さんが住み良さを実感できるまちづくりを進めていきます。



いんざい健康ちよきん運動